

石山寺縁起絵巻 (全七巻 重要文化財 石山寺蔵)

石山寺の歴史と観音の霊験を描いたもので、王朝趣味にあふれた作例として中世絵巻の中の屈指の名作として知られてきた。その典雅な輝きは鎌倉時代の宮廷絵師であった高階隆兼の様式によるところが大きい。南北朝の動乱によって中断を余儀無くされるものの、後世、宮廷絵師の土佐派や谷文晁など時代を代表する絵師によつて描き継がれ、五百年後にやっと完成を見た希有の作例である。その他、二十数点の模本・模写類が連綿と制作されていることをみても、その魅力がいかに長く人々を惹きつけたかをうかがい知ることができる。

二〇一六年九月刊行

B4判横上製函入 三分冊

- ・ 図版篇Ⅰ 重要文化財 石山寺縁起絵巻
- ・ 図版篇Ⅱ 模本類
- ・ 論考・資料篇

カラー二三三頁
カラー二八〇頁
モノクロ八〇頁

定価六八、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-8055-0765-0 C3071

■細部まで見てとれる迫力のカラー図版

原本である重要文化財「石山寺縁起絵巻」全七巻を、天地一九五×左右七二四mmの大画面で掲載。人物の細かい表情までうかがえる精細な図版により、鎌倉時代から江戸時代まで描き継がれてきたその魅力を伝える。

■現在確認できる模本についても全場面を収録

石山寺をはじめ、所蔵先の全面的な協力のもと、江戸時代初期から明治の今村紫紅にいたる、現在確認できる「石山寺縁起絵巻」各模本・模写の全場面と、草稿、断簡、詞書など本作品をとりまいてきた多くの資料を集成し、その時代時代における本絵巻受容の全貌にせまる。

■作品理解の助けとなる論考・資料

二篇の論考によつてこれまでの研究の総括と新論を付加し、模本の検討も含め総合的に考察することで、石山寺縁起絵巻の全貌を解明する。

また資料として、詞書の全文翻刻のほか、原本から模本までの法量表、石山寺にまつわる年表、加えて「石山寺流記」(宮内庁蔵)など、本作品周辺の資料図版を掲載することで、多角的な作品検討を可能にする。

■本書をお勧めする方々

美学・美術史、日本中世史、国文学などの研究者・研究室
美術館・博物館学芸員、大学・公共図書館
文化財保存・絵画修復関係者、画廊、古美術商、日本画家
寺院関係者と関係機関、表装・表具店、仏具店
「日本絵巻大成」シリーズ購入読者、画集・美術豪華本愛読者

お取扱いは

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒101-0051 東京千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル 6F

TEL03-5577-4797 FAX03-5577-4798